

北海道士幌高等学校 ボランティアクラブ

高校生ボランティア・アワード2023

士幌町の笑顔と元気を ～地域との架け橋を目指して～

活動概要

私たち北海道士幌高等学校ボランティアクラブは、「農家の子供たちの居場所を作りたい」という思いで活動を始め、農家の子供たちの居場所作りを中心に士幌町の皆さんとの交流を継続してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で士幌町内の各種イベントが中止、私たちボランティアクラブも士幌町との交流に制限がかかりました。感染症の影響で士幌町の皆さんの笑顔や賑わいが減少していると感じました。そこで士幌町の皆さんの笑顔と笑顔を取り戻したいと思い、令和4年度から新たなメンバーでの活動を始めました。士幌町の皆さんの笑顔と元気を取り戻すため、コロナ禍でも私たちにできることを行うこととし、ベルマーク回収や赤い羽根共同募金、食育イベントを行うことに決めました。

昨年度、ベルマークを寄付していた土幌小学校がベルマーク集計を行っていませんでしたが、帯広市にある若葉小学校がベルマークを回収していることがわかりました。確認したところ、寄付しても良いと許可を頂き、今年度もベルマーク回収を続けることが確認できました。集めたベルマークの点数は、小学校の教材道具の普及に使ってもらうことになりました。赤い羽根共同募金では、校内で2日間行いました。生徒や先生方のご協力のおかげで、8991円集まりました。

食育イベントでは、土幌町民とボランティアクラブでの交流をできないか考えたところ、新型コロナウイルス感染症対策を徹底的にした上でのイベントを開催することを計画しました。近隣の小学校が閉校する前に行っていただいていた子供達の居場所作りを再びできないか考え、思いついたのが食育イベントです。今回の食育イベントは、調理活動を通して、子供達に食に興味を持ってもらうこと、身近な食材の栄養素を知ってもらうことを目的に計画。簡単に作れるもので栄養価が高いものは何かと考えた私たちは、きなこの原料である大豆に注目し、『きなこのスノーボール』を作ることに決めました。スライドや被り物を使い、栄養素の動きを知ってもらうため、わかりやすく制作しました。当日になりましたが、大雪のため学校バスが運行停止になってしまいました。その影響で、食育イベントを開催できずに終わってしまいました。しかし、開催はできませんでしたが、準備期間中に学んだことがありました。学んだことを生かしつつ、今年度に改めて企画している食育イベントを開催しようとしています。昨年度で、イベントに向けて行っていた活動や計画を活用し、今年度も士幌町の子供たちの居場所作りや元気を増やすために日々活動を行っていきます。

私たち北海道士幌高等学校ボランティアクラブは、昨年度での活動の課題を改善し、今年度も士幌町での交流を深めていきます。私たちの活動で「士幌町の皆さんの笑顔と元気を」。地域との架け橋を目指して、今年度も志をもって活動していきます。



今年度も志を持った活動を

私たちが通っている士幌高校農業クラブで行っている「志」プロジェクト。私たちの高校では生徒一人一人が志をもって学校生活を送っています。

私たちボランティアクラブも、「地域との架け橋を目指す」という志を持って今年度も士幌町の皆さんとの交流を継続していきます。私たちの活動で士幌町の皆さんに笑顔と元気を。

オリジナルキャラクター

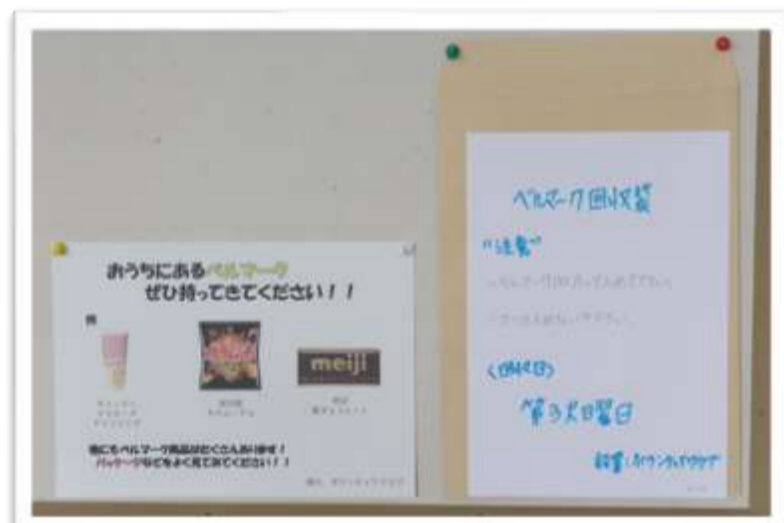
私たちボランティアクラブのオリジナルキャラクター、ティボップ(左)・ティアン(右)。昨年度から私たちと一緒に活動しています。士幌町の皆さんにかわいいと言ってもらえる機会も増えています。今年度も、一緒に活動していきます。



ボランティアクラブの軌跡～コロナ禍でも士幌町の皆さんの笑顔と元気を～

今年度新たに、ベルマークの集計や食育イベント、士幌町内での交流活動などを行ってきました。

ベルマーク集計では、学校に設置してある自動販売機にベルマーク商品がついてあり、昨年度まで捨てられていました。しかし、部員の一人が「ベルマークは価値があるのに捨てるなんてもったいない!!」という発言を受け、今年度回収することにしました。そこで、各クラスにベルマークを回収するための袋を設置、校内にある自動販売機の近くにベルマークのついたラベルを入れるためのBOXやポスターを設置しました。皆様のご協力のおかげで1348、4点集めることができました。集めたベルマークは同じ十勝内にある帯広市の若葉小学校さんに寄付することにしました。本来なら、土幌小学校さんに寄付をする予定でした。しかし、今年度でベルマークの回収を終了するとのことなので、ベルマークを回収している所を探していました。その中で、私たちの通っている士幌高校の教師の息子さんが通っている学校がベルマークを回収しているとのことだったので、若葉小学校さんに寄付することにしました。



食育イベントでは、士幌町にあるしほろキッチンで『きなこのスノーボール』作りとタンパク質についての授業を計画。小学生を対象に食に関する知識を身につけてもらいたい、食に興味を持ってもらいたいと思い、今回はダイズに含まれている『タンパク質』に着目、栄養素について知って貰おうと思いました。『きなこのスノーボール』にした理由は、小学生でも簡単に作れて一口で食べられるようなものにしようと思ったからです。準備期間中にレシピ、スライド、かぶり物の制作をしていました。小学生でも伝わるようにスライドやかぶり物を使い、イベント終了後にアンケートを実施しようと思いました。しかし当日、大雪の影響でバスの運行が停止になってしまい、食育イベントは開催できずに終わってしまいました。イベントは開催できませんでしたが、準備期間中で学ぶことができました。思いやる気持ちや自分の考えを他の部員に共有、すぐに行動に移すことが大切だと学びました。この学んだことを生かし、次回、計画している食育イベントに生かしていきたいと試みています。



赤い羽根共同募金では、11月24日～25日の2日間募金活動をしました。校内の皆さんのご協力のおかげで、8991円集まりました。この結果に、私たちボランティアクラブはやりがいを感じる事が出来ました。ボランティアクラブ個人でも募金活動をしてみたいと思いました。募金活動をするに当たって「緑の羽根募金」に参加してみたいと思いました。

上記の通り、私たちボランティアクラブは昨年度の活動で、その活動の時間の中で、たくさんのことを学び、知ることができました。その感じたやりがい今年度も『農家の子供たちの居場所を作りたい』・『士幌町の皆さんの笑顔と元気を』という目標のために、私たち北海道士幌高等学校ボランティアクラブは今後も活動していきます。

R5年度も士幌町の皆さんの笑顔と元気を

現在、士幌町は人口減少や少子高齢化など様々な問題を抱えています。過去に士幌町の人口は7000人以上住んでいました。ですが、時がたつに連れて人口が減少し、現在は約6000人にも上らないほどです。日本では少子高齢化が進んでおり、士幌町も例外ではありません。農業を自営している人も大体は高齢者が多いです。私たちは地域の農業高校として、地域の課題を解決できるように地域とより密接に活動していきます。そのために何が必要か考えたところ、私たちの交流活動で士幌町の魅力を知ってもらうことで町の賑わいを増やし、活気ある町にすることです。また、先輩方の活動の中で農業を経営している家庭の子供たちの居場所作りをしていました。先輩たちの意思を受け継いで継続していきたいと思っています。

昨年度からベルマークを回収しているので、昨年度の課題を生かし、家庭からの持ち込みを増やすことによってベルマークの回収率を上げていきます。また、昨年度、食育イベントが中止になってしまったので、準備期間中にでたレシピの準備がギリギリだった点や、試作がなかなかできなかったという課題点などを改善し、挑戦します。

また、今年度から新しく士幌町の皆さんとゴミ拾いのイベントを開催することを計画しています。

食育イベントの準備期間で身に付けた、部員全員で1つのことに向けて準備する力や、イベントに向けて計画する力といったノウハウを生かし、私たちの活動をしていきます。



ボランティアクラブプロフィール

私たち士幌高校ボランティアクラブは、3年生5名で活動しています。部長は働き者です。副部長はアグレッシブと人思いの2人です。部員は優柔不断と韓国大好きの2人です。私たちは、主に士幌町の町民たちとの交流活動を行っています。

部員
3年生5名

活動内容
ベルマーク集め、赤い羽根共同募金、学童との交流、食育イベントなど